

LPガスCP速報(2024年5月積)

1. 5月積みサウジアラムコLPガスCP

プロパン **580** ドル (前月比-35 ドル)
ブタン **585** ドル (前月比-35 ドル)

① LPガススポット市況等

LPガス市場をみると、中東市場は、暖冬を経て不需要期入り、産ガス国の定修もイランが増産し、供給は潤沢、中国PDHの新規需要、エチレンクラッカー向けなど石化需要がカバーする形。LPガス市況は、原油市況の上昇に下支えられたが、インドの輸入需要はみられず、米国産が極東に流入、需給緩和で市況は軟化した。極東CFR市況は、第3週でプロパン、ブタン620 ドル どころの横這い推移、第1週から20 ドル の下落。

米国市場は、大幅に落ち込んでいたプロパン供給が増加、天然ガス・NGLの増産、製油所稼働率も回復し、在庫も増加に転じた。在庫水準は第2週に前年を上回り、5年平均の中央(グラフ②参照)。需要は堅調に推移していたが、第2週以降大幅に減少、輸出は第3週に過去最高を更新(グラフ③参照)、記録的な輸出水準となっている。モンベルビュープロパンスポット価格は原油市況に連れ高となっていたが、第4週には400 ドル を割り込み、月間平均で前月比ほぼ横ばいの415 ドル/トン どころ(グラフ①参照)となった。一方、原油・ガソリン市況の高騰により高値が続いたブタン価格も軟化、第3週で420~430 ドル どころに続落した。

フレート市況は、堅調に推移、月間平均で前月比5 ドル どころの上昇。米国~極東市場も120~130 ドル で推移した。需要期を過ぎ、船舶需給が緩和し第2週に軟化、米国市況の反落で極東CFRとMBの価格差が200 ドル を超え、傭船需要が活発化したが、全般に落ち着いたスポット市況となった。パナマ運河の通航隻数は回復傾向、ガツン湖の水位の上昇を見込むも例年を大きく下回っており見通しは不透明。

ナフサ市況は小反落、月間平均は前月比5 ドル 下落の708 ドル どころ。原油市況の上昇に伴い連れ高となり、中下旬には715~720 ドル まで上昇、代替の石化ブタンに競争力がある。

バンカーオイルをみると、シンガポールIFO380は原油市況に連れ高、月間平均で前月比30 ドル 続騰の510 ドル どころ、LSMGO(低硫黄マリンガスオイル)は反発、前月比8 ドル 上昇の795 ドル どころ、ガスオイルとC重油との格差は285 ドル に縮小した。

5月CPは前年同月比プロパン25 ドル 、ブタン30 ドル のそれぞれ上昇。原油(アラビアン・ライト)熱量等価換算(下記参照)では、前月に比べプロパン8、ブタン9ポイントそれぞれ下落、前年同月比ではプロパン、ブタンともに1ポイント高い。

	第1週	第2週	第3週	第4週	平均
フレート(中東-日本)	70	60	70		
CP先物指標:P	600	585	585		
CP先物指標:B	605	590	590		

② 原油市況等

4月の原油市況は、地政学リスクの高まりを背景に急騰、昨年10月以来の高値を更新した。イスラエルがシリアのイラン大使館を空爆、イラン軍司令官が死亡したのを契機に両国の直接報復攻撃が行われ、ガザ紛争から中東戦争への拡大が懸念された。また、ロシア・ウクライナ戦争は泥沼化し双方のエネルギーインフラが攻撃され、燃料供給への不安が強まった。需給面ではOPECプラスが6月末まで現行減産政策継続を決定、供給タイトのなか、米中の経済動向に注目が集まっている。一方、原油先物市場は、プロンプトスプレッド(期近2限月)の逆ざやが拡大、需給逼迫感が示されているが、第4週には米国の利下げ観測後退、ドル高進行、金融市場のリスク回避の動きから、狭いレンジ取引となり、先行き不透明感が増している。

○4月積みアラビアン・ライト(4月1~25日までの想定)は89.35 ドル (前月比+3.70 ドル)

熱量等価AL100% プロパン732.58 ドル/トン ブタン722.53 ドル/トン
AL比 プロパン79.17% ブタン80.97%

*上記ALはE I N推計、確定値は後日Webサイトでご確認ください。

2. 2024年5月LPガス仕切（CP・MBコスト変動分）への影響

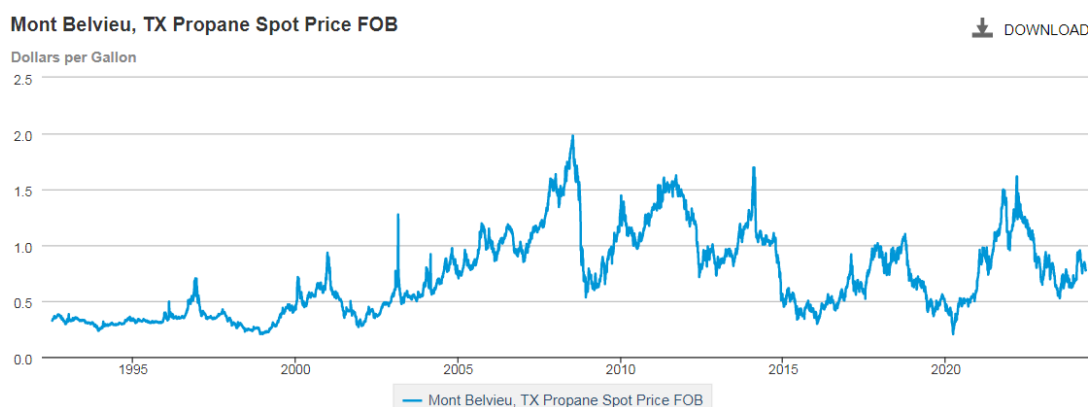
適用為替	T T S	P円建CFR	B円建CFR	P前月比	B前月比
4月月間	154.35	98,600	102,500	-500	-1,900

* T T S平均等について、各社の適用為替レートが昨年4月仕切改定から月間平均に統一された。

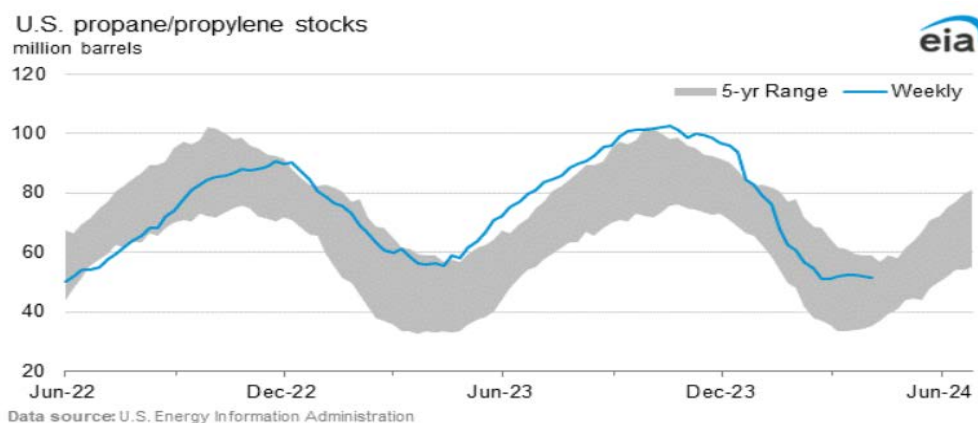
上記は4月1～26日までのT T S平均。CPは前月・当月50%案分。プロパンのMB合成比率はCP70%、MB30%で算定。CFRコストは中東・北米フレートを含むCFRコストを表示。CFRコストには北米の基地経費等も含まれるが各社で異なる。

なお、上記MBは3月27日までの価格を基にE I Nで試算（415ドル/トン）したもので、メーカー各社の最終確定値とは異なる。また、各社の仕切はフレート分、バンカーサーチャージ等の改定やフォーミュラ見直しもなされるため、仕切等の詳細はWebサイトを参照。

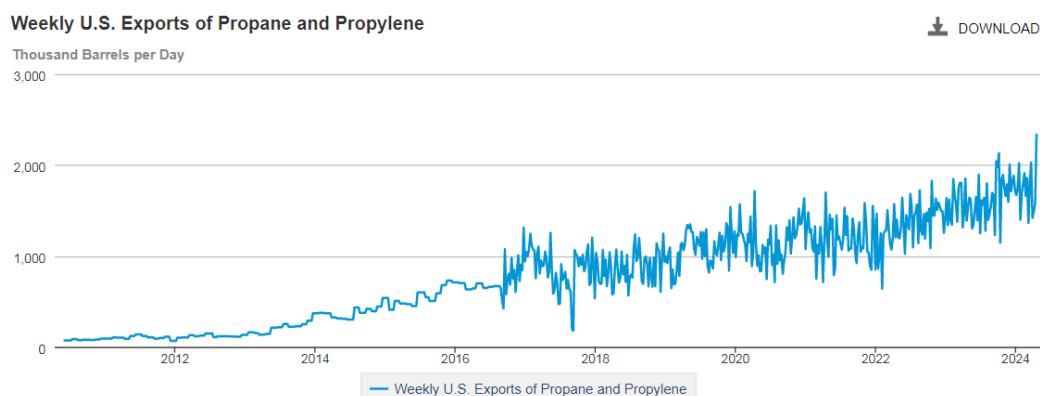
① 米国プロパンスポット価格推移



② 全米プロパン在庫推移



③ 米プロパン輸出量推移



出典：EIA